



Photo 記

デジタル技術の活用でごみ拾いの見える化

ボランティア専用回収ボックス

神奈川県大和市は2025年11月4日、ボランティア専用回収ボックス「LUCKY BOX」を市内の大和駅（小田急線・相鉄線）に設置した。

市の中心部にある大和駅では近年、コロナやテロ対策でごみ箱の設置数が減少しているなどの理由もあり、「ポイ捨てごみが目立っている。市としてごみ箱を設置してほしい」と市民からの意見が寄せられていた。清掃イベントの充実などにより長期的な美化には寄与しているが、短期的な対策も必要であると考えた。そこで、効果検証として、落ちているごみを拾った際に気軽にごみを捨てられるボランティア専用回収ボックスを駅に設置し、収集したごみの量を集計・可視化する取り組みを行っている。2026年1月末時点で可燃・不燃ごみ、PETボトルの合計回収量は約96kg。ボックスには、家庭ごみの不法投棄防止のため投入口を小さく設計し鍵をつけるなど市職員による工夫が施されていた。ごみ箱のイメージを明るく親しみやすいものにするため、市をホームタウンとするプロサッカークラブ「横浜F・マリノス」と協力し、ボックス前面はチームカラーのトリコロールが基調のデザインで、公式キャラクター・マリノスケも描かれている。

同ボックスには、市内企業の株式会社ケイ・システム開発「企業の体重計®」がセットされており、ごみ箱の下に敷くだけで正確な重量データをリアルタイムに確認できる。分単位で計測のタイミングを指定することが可能で、一定の重量が溜まったことを確認してから市の担当者が回収に向かうことができ、作業の効率化や人件費削減にもつながったという。同社代表の小島啓義氏は、「月次ごとの集計記録にも対応しているため、市民も可視化された数字を見ることができ、さらなる意識向上につながるだろう」と話している。

「市民からもまちがきれいになったと好評を得ている。引き続き周知啓発に努め、新たな企業とのコラボレーションも検討していきたい」（同市環境・公害対策課担当者）